

JAPAN P&I NEWS

No.828-16/07/14

外航組合員各位

米国の医療費について(その5)
アメリカから本国へ、傷病船員の付添人を伴う送還をよりスムーズに行うために

首題に関する Japan P&I News No.773、No.790、No.803、No.817 をご参照ください。
米国の医療サービスコーディネーター、Sphere MD 社より、米国の医療費に関する現地情報や費用抑制のための方策等について、シリーズで寄稿してもらっております。今回はそのシリーズ第五弾です。

本シリーズが組合員各位の参考になりましたら幸いです。

以上

日本船主責任相互保険組合

損害調査部 第1グループ

Tel: +81 3 3662 7219

Fax: +81 3 3662 7107

E-mail: claims-dpt@piclub.or.jp

Website: <https://www.piclub.or.jp>

添付：Sphere MD 社からの情報



アメリカから本国へ傷病船員の付添人を伴う送還をよりスムーズに行うために：

重傷を負った船員は多くの場合、治療を継続するために本国へ送還されません。傷病船員の本国送還は高額であるものの、アメリカで治療を継続する場合と比べればコストがかからず、費用を抑えるのに有効です。アメリカでは病院や医師が一日\$2,000から\$6,000を請求してくることを踏まえると、僅か4 - 5日分の治療費で本国送還の費用を超えてしまいます。本国送還することで、コスト節約に留まらず、船員は慣れ親しんだ環境の中、家族のそばで治療・療養を受けることが出来るという利点もあります。より良い精神的サポートがある環境の方が、患者の回復はより早くなる傾向があるという事は一般的に知られていることです。

本国送還は、容体によって二つのカテゴリに分けられます。救急輸送機などによる緊急搬送を要する、容体の不安定な患者と、設備を備えた民間航空機による搬送で間に合う、容体の安定した患者の二つです。本記事は、容体の安定した船員を対象に、アメリカから本国へ、よりスムーズに送還する上で必要な配慮について説明します。

本国送還の同意を得る：

付添いを伴う本国送還には、船員のアメリカでの担当医による指示と、船員の同意を必要とします。担当医の指示には、本国送還の指示と、フライト時間や乗り換え回数、そして座席の背もたれの角度といったフライトに関する事項の承認が含まれます。船員の同意書には、医療施設の変更や本国送還に伴うリスクに関する説明が必要となります。リスクには例えば、フライト中は一部の救命ケアが無いことがあること、深部静脈血栓症の発症の可能性、または不快感を覚えることがあるといったことがあります。SphereMDは船主やP&Iクラブに対し、本国送還の手続きがまとまる前に医師の指示と船員の同意を確認することをお勧めします。送還中に合併症が生じたり、医療施設の変更に伴う問題が生じた場合、船員の適切な同意を得ていないと、船主の責任が増すことになります。

本国送還を事前に計画する：

経験豊富なメディカルマネジャーであれば、付添いを伴う送還が必要となるかの判断を治療の早期に見極めることが出来ます。脳卒中や長骨骨折、又は胸部や背部の手術を要するような傷病の場合、必ず付添人を伴う本国送還が必要となります。本国送還に付添人が必要となる可能性を、治療の初期段階でケースマネジャーに確認を取りましょう。本国送還が遅滞なく行われるよう、早期に送還サービスの提供者を見つけ起用する手続きを始めてください。SphereMDは、事前に手続きや計画がなされなかったがために、送還が数日から数週間も遅れた事例を見てきました。注意を払う必要がある手続きや計画には、機内での適切な座席の手配、飛行中の酸素供給、点滴器具などフライトに認証が必要な器具、冷蔵を要する特別な薬剤、セキュリティの事前承認を要する医療器具、付添人のビザなどの手配が含まれます。

適切な送還サービス業者を選ぶ：

経験豊富で、必要に応じ様々な選択肢を提供してくれる送還サービス業者こそ、信用できる送還サービス業者です。評判の良い業者は包括的な賠償責任保険を手配しており、送還の任務を引き受ける前には必ず担当医との話し合いを要求します。付添人付きの送還サービスの料金は付添人の資格条件に大きく左右されます。アメリカの業者のサービスは一般的に、看護師の場合は一日\$2,000から\$3,000を請求し、医師だとそれ以上となります。容体が安定した患者の送還に医師の付添いを必要とすることは稀です。

患者の不安に対処する：

船員は、本国送還に対し強い不安を持つ傾向があります。治療が継続されないかという恐れ、看護師を伴っての移動に対する不安、治療を必要とする事故に遭った事を非難される心配、そして新たな医療診断に対処すること全てが不安を引き起こします。船員の不安は、医学的には担当医や医療搬送のサービス提供者によって対処されます。主に、不安を和らげる薬が用いられ、それによって快適で効果的かつ安全な付添人付きの送還が確保されます。医学的なものとは違う観点から言えば、SphereMDは送還のかなり前から船主が船員と連絡を取り、船員の質問に答え、安心させることを勧めます。船員と事前に話し合う事項の中で重要なのは、本国の医療ケアに関する事、空港での出迎え、病院への移動、空港で待機する家族、そして船員の賃金への影響、などがあげられます。

船員の安全を第一にフライトを手配する：

本国送還の際に忘れてはならない最も重視すべき点は、患者を安全に、そして快適にアメリカから本国へ搬送することです。つまりは、乗り継ぎは最小限に抑えなければなりません。また、航空機の座席が適切かどうかの確認も必要です。ビジネスクラスの座席であっても適切だとは限りません。ビジネスクラスの座席の多くはリクライニングシート又はフラットシート仕様となっていますが、たいいていの場合、患者は完全に仰向けになれる機能を必要とします。特に180度フラットシートは、長骨骨折や骨盤骨折を負った患者や、血液循環に問題がある患者にとって重要です。乗り継ぎをする国も考慮しなければなりません。どの都市が最良質な医療ケアを提供しているか知ることが重要であり、可能であればその都市を乗り継ぎ地点に選ぶようにしましょう。緊急事態が生じた際、乗り継ぎ都市の選択が重要になってくる事もあり得ます。

帰国の際の計画を立てる：

アメリカを発つ前に、患者が本国に到着した際の手配を済ませることはとても重要です。更に、船員が事前にこの手配について知らされていることも重要です。具体的には、本国で飛行機を降りてから、適切な設備のある医療施設への入院までを計画すべきです。SphereMDでは、到着のあと患者を本国の病院に24時間以上入院させることを勧めています。そうすることで、帰国後の患者の健康状態を綿密に検査することを確保し、船主、船舶所有者とP&Iクラブが負う責任を制限できるのです。加えて、帰国後に治療を打ち切られるのではないかと患者の不安を和らげることが出来ます。このような不安は多くの場合船員が本国送還に抵抗する要因となってしまいます。入院を認めることで患者に治療の確約ができ、結果、送還手続きに積極的に協力するようになります。

最後に：

医療に伴う本国送還は、患者の回復を促し、船員と家族の再会を果たし、医療費や請求額を大幅に軽減します。アメリカで5日間以上の治療を必要とし、なおかつ付添人がいれば安全に旅行することが出来る、容体の安定した患者の場合は、本国送還を検討すべきです。送還サービスを選択する際は、最終手続きを終える前に、担当医の許可と船員の同意を条件にしてください。患者が快適であることと安全を、本国送還において常に最重要視すべきです。そのための一番の方法は、送還予定日より十分余裕を持って全ての手続きと計画を済ませることです。将来に対する不安と恐れを取り除くため、船員と共に送還の計画を立てるべきです。